

1. 取組の経緯

焼津市では、一部の地区で市民活動が行われているが、町全体での人づくり・まちづくりの動きは少なく、市民集会では意見が出るものの、実行には至っていない。また、市民活動の補助制度もあるが、十分に活用されていないという現状がある。市民集会の参加者は高齢者が中心であり、若い世代がまちづくりに参加することが少ない。

そのような背景から、地域全体での活性化を促し、市民が主体的にまちづくりに関わる仕組みをつくっている。補助制度の利用を促進し、広域的なコミュニティづくりを支援するためのきっかけやノウハウを学んでもらうため、研修を実施した。

令和5年度からしずおか中部連携中枢都市圏ビジョン掲載事業の一環として住民向けの研修を実施。令和7年度は焼津市の魅力を可視化するため、まずは焼津市の魅力の再発見と言語化を行う。その後、取材を通してパンフレットを作成し、再発見した魅力を広く周知するまでの一体的な研修の企画と実施を行った。

2. 取組内容

① 取材方法や写真の撮り方研修～取材のはじめ方を学ぶ日曜日～

第一回の講義では対話と写真撮影の基本を学習した。グループワーク形式で対話をしながら、参加者同士で学びを共有する。インプットした学びをすぐにアウトプットするので、学びの言語化が可能となる。さらにアウトプットされた学びを、他の参加者が再度インプットし、複合的な視点で学びを深めることも可能となる。

取材時に必要な技術は、話の聴き方と写真の撮り方である。まず、参加者には聴く練習を行なった。聴き役の3つのルールは、話を遮らない、うなずきと相槌を入れる、楽しそうに・嬉しそうに聴くである。正しい質問や賢そうな聴き方よりも相手が話しやすい場を作ることが重要である。話しやすい雰囲気が出来れば、取材の目的である相手の話を聞き取ることに繋がる。

写真の撮り方で意識することはたくさん撮ること、近づいて撮ること、話しながら撮ることの3つである。これらを意識しながら写真を使うかのように使うかをイメージすると必要な写真を撮影することが出来る。

また、写真の補正も必要な作業である。写真の明るさや色味を変えることで写真の雰囲気を変えることが出来る。記事で伝えたい事と写真の雰囲気が合致することで読み手の理解がより深まる。写真撮影の練習のため、参加者同士で取材写真を撮りあった。普段、モデルとして写真を撮ったり、撮られたりすることはあまり無い人が多く、新鮮な体験となった。また、参加者同士の親睦も深まったことで次回以降の研修につながる良い機会となった。

② 取材の実践～まちの魅力に会いに行く日曜日～

第二回の講義では実際に取材先へ赴き、研修参加者がまちづくりに参画している方へ取材し、その成果をまとめる作業を行った。

2班に分かれ、取材を行った。1班6～7名程度で①メインインタビュアー②取材内容の記録③写真撮影④時間管理（タイムキーパー）の役割分担を行い、円滑に取材ができるよう班内で準備を行った。

取材時はインタビューシートを参考に、取材相手に質問を行った。まずは相手と焼津市の関係性を知り、なぜ焼津市のことを好きになったかを深掘りする。その後、まちづくり活動で挫折したことを聞きながら、将来の展望で結ぶという構成である。インタビューシートは起承転結を意識しており、最終回のパンフレット作成時に構成に悩まないようなものとなっている。

取材終了後は、グループで写真の共有と取材内容の共有を行った。各自で写真を撮影しており、その数は膨大なものとなるため、グループごとに20枚まで印刷する写真を対話によって厳選した。その20枚の写真を切り貼りしながら第三回で手作りパンフレットを作成する。写真を厳選した後は、インタビューシートにメモした内容を基にどの写真を使い、どのようなパンフレットにするかを、対話しながらイメージを膨らませた。

③ 街のパンフレット作成～私のハンドメイドパンフを作る日曜日～

第三回の講義では第二回で取材相手に関するパンフレットを作成するワークショップを行った。参加者が困らないよう、まずはデザインの注意点を提示しながらラフレイアウトを作成した。パンフレットの中にストーリーを作り、読み手の興味を惹くものを作るため、ストーリーフレーム、PREP法や5W1Hを意識しながらグループで対話を行った。取材時から時間が経過していたが、取材写真や取材相手の苦労、成功体験に関する取材記録を確認することで、参加者は取材時の熱量のまま、ワー

クシヨップをおこなうことが出来た。そのため、活発な対話が生まれ、休憩時間やクロージング後もパンフレット作成を行う班もあった。

3. 担当者所感

焼津市の住民やファンが全三回の講義の中で、焼津市の魅力に気づき、SNS等で魅力の発信を行うことは関係人口の増加やシビックプライドの醸成につながると感じた。ふるさとへの帰属意識が薄れている現代社会において、自治体の魅力を言語化し発信する人を増やすことの重要性を再確認できた研修であった。

まちづくりに参画する若者が減少傾向にあるのは、まちづくりに入り込む余地がないためと考えている。若者も意見を出すことで、自分のまちを変えることが出来る成功体験を積むことが重要である。今回の研修では実際にまちづくりに参画している若い人を取材対象とした。参加者の中には学生もおり、その成功体験を身近に感じる事が出来たと思う。次はこのような焼津市の若者達が、まちを変える活動に着手し、未来を担う人材となっていることを期待したい。

執筆者 地域活性化センター 企画・人材育成グループ 木本 祥太郎

(熊本県上天草市より派遣)